

平成 24 年度 第 4 回常任委員会議事録（案）

日 時：2012 年 10 月 30 日（月）14：00～17：00

場 所：土木学会 A 会議室

出席者：二羽委員長，下村幹事長，石橋、内田、岡澤、鎌田、河合、坂田（河野：代理）、黒田、堺、佐藤（勉）、島、田中、中村、西垣、信田、橋本、前川、松田、睦好、森川、横田、渡辺の各常任委員，綾野，小林，佐藤，久田，丸屋（記録）の各常任委員兼幹事，二瓶（事務局）（敬称略）

配付資料：

- 4-0 平成 24 年度 第 4 回コンクリート常任委員会 議事次第
- 4-1 平成 24 年度 第 1 回コンクリート委員会・第 3 回コンクリート常任委員会合同会議 議事録案
- 4-2 コンクリート委員会規則
- 4-3 コンクリート委員会次期委員長推薦投票方法
- 4-4 土木学会コンクリート委員会 規準関連小委員会 委員構成（案）
- 4-5-1 示方書 施工編 改訂概要と意見に対する回答
- 4-5-2 施工編改訂 説明補足資料
- 4-5-3 施工編改訂への意見と回答
- 4-6 設計編 修正事項の要点
- 4-7 土木学会規準（PC グラウトの試験方法）の改訂および新規制定について
- 4-8 平成 24 年度 コンクリート委員会 一般会計 予算（案）
- 4-9 平成 25 年度全国大会共通セッションテーマの募集
- 4-10 Web ラーニングで「コンクリート」を学ぼう
- 4-11 コンクリート構造物のせん断力に対する設計法研究小委員会 成果報告会
- 4-12 けい酸塩系表面含浸工法の設計施工指針（案） 講習会のご案内
- 4-13 建設工業新聞 ベトナムでの講習会の記事
- 4-14 第 12 回 コンクリート構造物の補修，補強アップグレードシンポジウム 参加募集
- 4-15 コンクリートのポンプ施工指針 講習会参加申込書
- 4-16 東北支部コンクリート技術講習会開催案内
- 4-17 「ポンプ指針&高流動コンクリート指針」に関する各地区での講習会開催計画状況

議 事

1. 委員長挨拶

二羽委員長より，示方書施工編，設計編に関する活発な審議の要請があった。また，PC シンポにおいて琵琶湖博物館館長篠原先生による「自然と共存できるコンリートに対する期待」の講演があったことが紹介され，コンクリート技術者としての役割をあらためて認識するとともに，将来への技術進展への努力が必要と感じた旨の報告があった。

2. 平成 24 年度第 1 回コンクリート委員会・第 3 回常任委員会合同会議議事録案の確認【資料 4-1】

岩波幹事より，前回議事録案が説明され，異議なく承認された。また，二羽委員長より，審議事項 7「示方書の意見照会手続き」の箇所，維持管理編及びダム編の発刊を半年遅らせることに関し，丸山示方書委員会委員長から事務局長に報告，二羽委員長から出版担当者に報告し，了解が得られたことの追加説明があった。

3. コンクリート委員会委員長選挙について【資料 4-2，4-3】

下村幹事長より，資料を用いて委員長の選出方法の説明があった。常任委員は 43 名であるので，過半数は 22 名となる。資料 4-3 については全文を読み，投票方法が周知された。投票用紙及び封筒が全常任委員に郵送されることが報告された。

4. 審議事項

(1) 1種委員会の委員構成について【資料4-4】

二羽委員長より、規準関連小委員会の委員交代及び委員の所属社名変更が報告され、承認された。

(2) 示方書施工編の審議【資料4-5-1, 4-5-2, 4-5-3及び回覧原稿】

施工編主査河野委員の代理として施工編副主査の坂田氏により、施工編の概要の説明がなされた。質疑応答は以下の通りである。[Q:質問, A:回答, C:コメント]

Q: 2012年制定版は2007年制定版と同様な構成か。また、2002年制定版では性能照査を基本とし、2007年制定版では仕様規定も再度取り入れられたが、2007年制定版は問題が無かったと考えてよいか。(堺委員)

A: 同様な構成である。2002年制定版での配合設計では実際の配合設計はできなかった(平成8年制定版の考え方は参考)が、2007年制定版では平成8年制定版の仕様規定部分の一部を再度採用して配合設計が可能となり、特に問題があったとは認識していない。これは2012年制定版でも取り入れている。(坂田氏)

Q: 2007年制定版で、技術開発や先端技術の適用が阻害されていないか。(堺委員)

A: 阻害されていない。(坂田氏)

C: 示方書の役割として、示方書を超えた技術開発などについて考えを誘導する役割もある。(堺委員)

A: 新技術の場合には本編を用いて照査すれば全く問題ない。(坂田氏)

Q: 暑中コンクリートの35℃以上については、法令面から作業環境としての問題はないか。(岡澤委員)

A: 法令面での作業環境については示方書で示す施工とは別問題である。改訂資料で35℃規程の歴史的変遷の調査結果を述べる。(坂田氏)

●意見については、11月20日までに、河野主査、坂田副主査に連絡する。12月20日の常任委員会で出版承認の予定。(下村幹事長)

(3) 示方書設計編の審議【資料4-6及び回覧原稿】

設計編主査前川委員より設計編の概要の説明がなされた。質疑応答は以下の通りである。[Q:質問, A:回答, C:コメント]

Q: たわみの算出にはファイバーモデルを用いているが、これにはクリープの算出もリンクしているのか? 長期たわみの計算と有効プレストレスの算定では別々のクリープ、収縮を用いるのか。(石橋委員)

A: 詳細な計算方法による場合は統一的に計算しているが、簡便な方法による場合は別々に行っている。有効プレストレスの算定は従来通りの方法でよいが、たわみは施工手順を追っての計算を行っている。(前川主査)

Q: たわみに対する上下床版の乾燥収縮の影響は。(石橋委員)

A: 上下フランジの収縮量の差が100 μ でスパンが大きい場合にはたわみにも影響が出る。これはクリープの影響よりも大きい。(前川主査)

Q: ひび割れ幅の限界値ではせん断ひび割れも対象としているが、せん断ひび割れ幅の照査式は提案されているのか。(睦好委員)

A: 提案されていない。(前川主査)

Q: 曲げひび割れとせん断ひび割れは同一に扱えないと考えるがどうか。(睦好委員)

A: せん断ひび割れ幅の算定方法の基本的考え方は曲げと同様に考えている。(佐藤幹事)

C: 設計でできるということと、技術的に可能であることは違う。本編では曲げひび割れと同一の扱いとなっているが、せん断ひび割れはそもそも発生を許して幅を制限すべきものなのか。丸鋼のスターラップではひび割れ幅が大きくなるが、これも制限することになるのか。研究段階であるため、表現を見直した方がよい。(睦好委員)

Q: 環境性は経済性と同様に扱ったのか。(堺委員)

A: 経済性は部材レベルで考えることではない。CO₂排出量も部材ごとで考えるものではない。経済性と同様、構造物レベルで考えることであるので、構造計画部分に記述した。(前川主査)

C : ACI 318 の新バージョンでは、詳細は不明であるがサステナビリティが入る。(堺委員)

C : ACI 318 は建物が対象のうちの大きなウエイトを占めることから、ランニング CO₂ が非常に重要視され、我々と若干スタンスが異なっているように感じる。(前川主査)

●意見については、11月20日までに、前川主査、佐藤副主査に連絡する。12月20日の常任委員会で出版承認の予定。(下村幹事長)

(4) 「PC グラウトの試験方法規準」の審議【資料4-7】

鎌田委員より標記規準の説明、来年早々に PC 工学会より規準が発刊されること、施工編に資料記載の新規②が NEXCO の試験方法として入れられることの説明がなされた。質疑応答は以下の通りである。[Q : 質問, A : 回答, C : コメント]

Q : ISO 規準との関連がどのようになっているか。(堺委員)

A : 名称等、ISO 規準に可能なかぎり合わせた。(鎌田委員)

C : ISO の3年後の改訂を目指して ISO に反映させてほしい。(堺委員)

●意見については、11月21日までに、鎌田委員に連絡する。(鎌田委員)

5. 報告事項

(1) 平成24年度予算執行状況【資料4-8】

下村幹事長より、平成23年度予算執行状況が報告された。質疑はとくになし。

(2) 平成25年度土木学会全国大会共通セッション、特別セッションの募集と部門別セッション名の確認のお願い【資料4-9】

下村幹事長より、意見を11月30日までに幹事に連絡してほしいと依頼された。

(3) 年次学術講演会部門別セッション名の英語表記ご確認のお願い【資料4-9】

下村幹事長より、意見を11月30日までに幹事に連絡してほしいと依頼された。

(4) Web ラーニングプラザ紹介チラシの完成版の報告【資料4-10】

渡辺(博)委員より、3000枚のチラシ作成と、講習会で配布したいことが報告された。

(5) 報告会・講習会について【資料4-11, 4-12】

佐藤幹事より、「コンクリート構造物のせん断力に対する設計法に関する報告会」の案内があった。参加費8000円には吉田博士記念基金への寄付を含む。

小林幹事より、「CO₂削減を考慮したコンクリート構造物の解体、再利用、補修技術に関する調査研究小委員会」成果報告会及び「けい酸塩系表面含浸工法の設計施工指針(案)」講習会の案内があった。

(6) ベトナムでの示方書講習会の報告【資料4-13】

中村委員より今年度の実施結果と、来年度はホーチミンでの開催を予定しており、今後も継続していきたいとの報告がなされた。

(7) 各種講習会について【資料4-14~4-16】

小林幹事よりアップグレードシンポジウムの案内が、橋本委員よりポンプ指針、高流動指針の講習会の案内があった。

(8) 示方書講習会について

下村幹事長より以下の報告があった。

基本原則、設計、施工編：東京開催は2013年3月21, 22日、大阪開催は4月17, 18日。

維持管理、ダム編：東京開催は2013年10月11日、大阪開催は東京の10月16日を予定。

6. その他

(1) 横田委員より維持管理編への意見を11月30日までに横田主査、河合副主査に送付するよう依頼があった。

(2) 次回幹事会：2012年12月13日(水) 15:00~17:00 (案件の締切は前日12/12)

第5回常任委員会：2012年12月20日(木) 14:00~17:00 於：土木学会会議室

以上